

「のぶすま」は高尾山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。「希望の方は窓口へお申し付けください。」

高尾山4コマ漫画 その20

解説員アラツの挑戦！

テンの食べ物は何の巻

作画：ぼん



※イタチ科の動物。小動物や果実を食べる
季刊高尾ビジターセンターニュースレター
「のぶすま」2011年秋号Vol. 28
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成
2011年10月1日発行
所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町2176
電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926
URL：http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/
(カラー版最新号を閲覧できます)

「秋」の一言

秋の日はつるべ落とし！
高尾山に外灯はありません。ライトを持参しましょう。

季節のみどころ

10月	<p>開花植物 セキヤノアキチョウジ、ヤマハッカ、サラシナショウマ、マツカゼソウ、モミジガサ、オクモミジハグマ、ヤブタバコ、シュウブソウ、カシワバハグマ、コウヤボウキ、アズマヤマアザミ、ノハラアザミ、トネアザミ</p>
11月	<p>開花植物 ノコンギク、ユウガギク、シロヨメナ、シラヤマギク、コウヤボウキ 紅葉 メグスリノキ、カジカエデ、イタヤカエデ</p>
12月	<p>結実植物 イイギリ、ジャノヒゲ、アオキ、ヤブコウジ 冬鳥 ルリビタキ、アトリ、マヒワ、シロハラ</p>

[花]10月上旬～下旬くらいまでシソ科、キク科などの秋の花が盛んです。

[野鳥]12月頃から冬鳥が飛来します。

[昆虫]10月中旬ころまで、旅をする蝶「アサギマダラ」を見ることができます。フワフワと飛ぶ姿やアザミなどの花に来ている様子を観察できます]

[紅葉]11月中旬～12月上旬ころが紅葉シーズンです。

[ダイヤモンド富士]高尾山山頂からは冬至の前後数日間、富士山山頂に夕日が沈むのが見られます。

ビジターセンター通信

7/18「目指せ！素敵なお山オンナ」実施

女性が安全で楽しく登山をするための講座。
登山ライターで、豊富な登山経験を持つ柏澄子さんを講師に、ケガの対処方法や、山選び、持ち物、トイレの問題など、参加者がそれぞれの悩みや経験を話し合い、共有しながら、実際に山を歩いてみました。

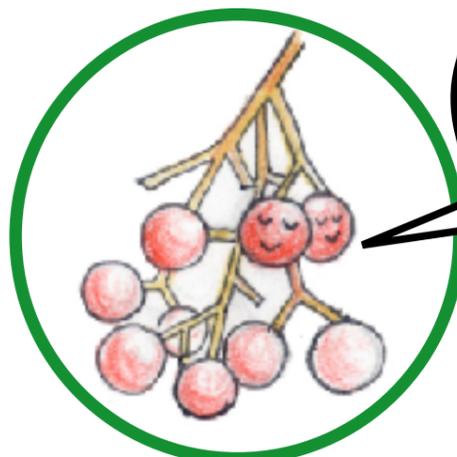


今後の行事予定

- 10/30 親子で一緒にわくわく！秋の高尾山
- 11/26 「高尾山麓ドキドキ巡り」
- 12/11 地図の読み方
- 12/17 高尾山でムササビを見よう！

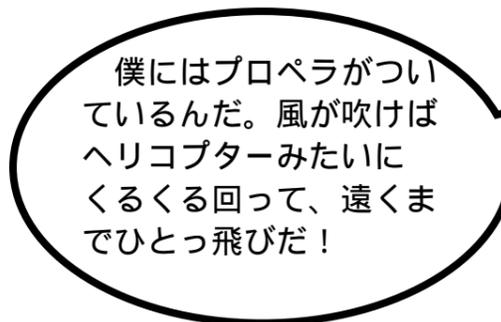
木の实たちの旅立ち

実りの秋、高尾山にはたくさんの木の实が実っています。これから木の实たちは親木を離れ、遠くへ旅立とうとしています。おや？山頂近くの木々たちが、なにやら作戦会議をしている様子。ちょっとのぞいてみましょう。



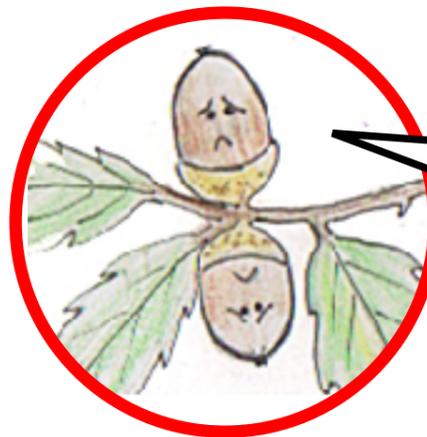
イイギリ

僕は真っ赤な色が自慢なんだ。鳥たちには、さぞ美味しそうに見えるだろう。鳥にくわえて運んでもらえば、あつという間さ！



カジカエデ

僕にはプロペラがついているんだ。風が吹けばヘリコプターみたいにぐるぐる回って、遠くまでひとつ飛びだ！



コナラ(ドングリ)

イイギリ君はカッコいい赤色をしているし、カジカエデ君はプロペラがあるけど、僕には何にもいいところがない。このままじゃ遠くに行けないよ。もう旅立ちまで時間がない。どうしよう？

さて、一番遠くまで行ける木の实はだれでしょうか？裏面へ続く。



のぶすま

季刊 高尾ビジターセンターニュースレター

2011年秋号

Vol.28

「のぶすま」とは、ムササビの古い呼び名です。高尾山に住む人気者のムササビにあやかって、「のぶすま」とつけました。

木の实たちの旅立ち

秋も深まり、木の实たちはそれぞれの旅に出ました。うまく遠くへ行くことができたのでしょうか。



赤いのに...鳥たちには美味しそうに見えるはずなのに...。なぜ...なぜ誰も食べに来ない...!

イイギリ



プロペラはくるくる回ったけれど、遠くへは飛べなかった。風...風さえ吹けば良かったものを...!

カジカエデ



地面に落ちて、もうそのままかと思ったら、カケス君が拾ってくれたよ。どこまで運んで行ってくれるのかな?

コナラ



秋は終わり、やがて冬がやってきました。

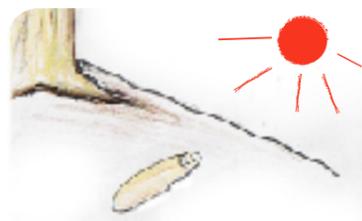
さて、新天地での木の实たちは?



イイギリ 目立つけれど、あんまりおいしくないイイギリは、なかなか食べてもらえませんでした。でも、良さを分かってくれる鳥がいたようです「一時はどうなることかと思ったけど、ヒヨドリ君が食べてくれたよ。ヒヨドリ君のお腹を通して、ウンチと一緒に地面に落ちこてきたんだ」

カジカエデ

「あんまり遠くへ行けなくて残念だったけど、ここは日当たりもいいし、がんばってみるよ」風がなければ自慢のプロペラも活かさないですね。作戦は失敗でしたが、カジカエデは気を取り直して故郷に根づく覚悟を決めたようです。



コナラ

「カケス君はあの後、木の根っこのすき間に僕をしまい込んだよ。冬の蓄えにするみたいだ。食べられさえしなければ、春には芽を出せるぞ」カケス君が、このまま忘れてくれるといいですね。



植物は色々なところに種を飛ばすことで、環境が変わったり、病気がはやりたりした時に仲間が全滅しないようにしています。ひとつひとつの種にとっては、落ちた場所の環境の方が大事で、遠くまで行けなかったからと言って必ずしも「失敗」というわけではないのです。

種子散布から探る高尾山の木の实

植物は、形や色に様々な工夫をして種子を遠くへ移動させます。種子を広く遠くまで(種子散布)することで、自分たちの生息範囲を広めるのです。風や水を利用したり、動物や野鳥に運んでもらったり、その方法は色々。ただし、いつもうまくいくとは限りません。また、遠くへ移動できたとしても、無事に発芽・成長できる種子は、ごくわずか。植物が子孫を残すのは大変難しいのです。木の实の形や色を観察し、どのような方法で種子散布をしているのか考えてみましょう。

風散布

風に乗って種子を飛ばす。飛びやすいように、非常に軽くなっていたり、果実や種子の一部が綿毛やプロペラ状になっていたりする。

(テイカカズラ、キジョラン、イロハモミジ、イタヤカエデ、オオモミジ、カジカエデ、チドリノキ、アカシデ、イヌシデ、モミ、スギ、ヒノキなど)



被食散布

果実を動物や野鳥の食べ物として提供し、種子を糞から出す。果実は動物の関心を引き付けるため、赤色や紫色などの目立つ色をしているものが多い。

(ツリバナ、ガマズミ、コバノガマズミ、マユミ、オオウラジロノキ、カラスザンショウ、サルトリイバラ、ムラサキシキブ、アケビなど)



ガマズミ



カラスザンショウ



貯食散布

種子そのものを動物や野鳥の食べ物として提供し、運んでもらうことで散布する。これらの種子はリスやカケスなどに保存食として蓄えられ、食べ残しや食べ忘れによって発芽できる。

(クヌギ、コナラ、カシワ、アラカシ、ウラジロガシ、ツクバネガシ、アカガシ、シラカシ、ブナ、イヌブナなど)

その他

水散布：水に運ばれて種子を移動させる(オニグルミなど)
重力散布：転がることで種子を移動させる(チャ、ツバキなど)